

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏名 川 畑 修 平

	主査	教授	平野	聡
審査担当者	副査	教授	坂本	直哉
	副査	准教授	神山	俊哉
	副査	教授	渥美	達也

### 学位論文題名

胆管大結石に対する乳頭大径バルーン拡張術の有用性に関する研究

(Studies on the usefulness of endoscopic papillary large balloon dilation for large bile duct stones)

総胆管結石の内視鏡治療において、大結石症例では内視鏡的乳頭大径バルーン拡張術 (Endoscopic papillary large-balloon dilation: EPLBD) の有用性が近年報告されている。一方で内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (Endoscopic papillary balloon dilation: EPBD) は乳頭機能を温存し再発率を低下させると報告されている。今回 EPLBD と EPBD による治療成績を短期的および長期的に比較検討した。EPLBD は大結石除去においては EPBD と比較し処置を容易にし、安全性や長期成績においても同等の結果であったことから、EPLBD の有用性が示された。

審査にあたり、まず副査の渥美教授から、主要評価項目、マッチングの方法、乳頭機能の評価方法について質問があった。申請者は、評価項目は EPLBD の有用性であり、マッチング方法は項目のみであり、乳頭機能の評価は推測であることを回答した。副査の坂本教授より、乳頭機能が温存できないことの問題点について質問があり、申請者は、胆管結石の再発や胆道炎や胆道癌のリスクが上昇すると回答した。乳頭処置の選択方法についても質問があり、申請者は、微小結石、易出血性例には EPBD を選択し、大結石例には EPLBD を選択すべきと回答した。主査の平野教授より、バルーンを用いた内視鏡治療における膵炎発症の原因に関する質問があり、申請者は、膵管の圧排と乳頭浮腫が原因であると回答した。最後に副査の神山准教授より、EPBD 後の乳頭機能について質問があり、申請者は、乳頭機能が温存できない可能性は推測であると回答した。

本研究は、胆管大結石に対する EPLBD と EPBD の有用性と安全性について比較した後方視的研究であるが、マッチングにより選択バイアスを可能な限り減じている点で優れている。また、EPLBD の長期成績についての検討は検索し得る範囲では他に類がなく、今後、EPLBD の普及に関し本研究の及ぼす影響は大きいものと期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。